

改訂3版の序

悪性リンパ腫は、免疫系細胞から発生する多様な腫瘍の総称です。他の「がん」と異なる特徴は、特定の臓器や部位に発生して腫大するのではなく、全身各所に分布するリンパ節やリンパ組織のどれかひとつから発生して広がる性質があり、リンパ節以外の臓器からも発生することがあるため、発症時の部位や症状が多様なことです。また、悪性リンパ腫は、由来する多様な細胞や組織の性質によって多くのタイプに分類され、治療法もそれぞれに分かれています。

治療法は、タイプのほかに病気の広がり具合によって異なります。悪性リンパ腫は一般に放射線治療や化学療法が比較的良好で、主なタイプに対しては標準治療が確立しています。標準治療とは、きちんと計画された治療研究（臨床試験といいます）によって治療成績や副作用についての十分なデータに基づいて、従来の治療法より優れていることが証明された最善の治療のことをいいます。

さて、本書は2004年に初版を発行してからご好評をいただき、2009年にその間の診断法や治療法の進歩をふまえて改訂をしました。その後さらに、悪性リンパ腫に有効な新薬や新たな標準治療が登場してきています。そこで、最新のエビデンスに基づいて再改訂をすることとしました。執筆陣も、現役世代の新進気鋭のメンバーを中心に刷新しました。とはいえ、できるだけ図表を多くし、分かりやすく、簡潔にまとめるという初版からの方針は引き継いでいます。

患者さんが、ご自分の悪性リンパ腫のタイプや悪性度、病気の広がり具合について正確に理解され、望ましい治療法について十分な説明を受けられた上で、納得して治療を受けていただくことが大切です。本書が、主治医の説明の補助として活用され、患者さんご自身が治療の選択において適切なご判断をいただくための一助になれば幸いです。

2017年9月

堀田 知光